

大型テントガレージ

日本語補足説明書

標準ルーフ、ハイルーフタイプ共通



この度は本製品をお買い上げ頂きまして誠にありがとうございます。

このシェルターは短時間での組み立てと最小のメンテナンスを誇る、コストパフォーマンスに優れた製品です。
本製品を正しく安全にお使い頂くために、設置前に必ず付属の英文説明書及び、本補足説明書をお読みください。

組立・使用上の注意及び禁止事項

※組立ての前に「 危険・ 注意」を必ずお読みください。

 危険	この警告を無視して誤った組み立て方や使い方をすると、人が死亡、または重傷を負う事故が想定される内容を表しています。
※組立時	
	<ul style="list-style-type: none">● シェルターの設営には、重い部品の取り扱いやその下での作業が必要となりますので、ヘルメット等で頭部の保護をして作業を行ってください。● シェルターを設営する土地の地下にガス管や水道管等が通っていないか確認して下さい。設営の際の危険性に加え、シェルター設営後に移動が必要となるリスクがあるため、設営前に確認を行ってください。● 風の強い日、雨や雪の日の設営は、大怪我に結びつく恐れがありますので、悪天候時には設営しないでください。● 雪がまとまって落ちる恐れのある場所、雪が吹溜りになる場所、風当たりが特に強い場所には危険ですので、設置しないでください。● シェルター内や周りでの火気使用は、火災の原因、一酸化炭素中毒等、生命をおびやかす恐れがありますので、絶対におやめください。また火災等の原因となりますので、火気から離れたところに設営してください。● シェルターを設営するとき、脚立や足場などが必要となる場合があります。安全ベルトやハーネスを常に使用してください。● シェルターの骨組みは人間の重量に耐えられる設計ではありません。
※使用時	
	<ul style="list-style-type: none">● 台風、暴風雨、落雷等の異常気象が予想される場合は、災害に備えて一時的にシート部を外したり、シェルターの撤収を行ってください。● 悪天候の際はシェルターの移動やシェルターの内部、及びその周りでの作業を控えてください。● 雪の多い地方で、雪に埋もれた場合等は押し潰される危険性がありますので、絶対にシェルター内に入らないでください。除雪を行ってから安全を確認の上お入りください。● シェルターは防火仕様ではありません。内部での火気の使用はもちろん、周りでの火気使用は厳禁です。● シェルター内で電気製品を利用する際、野外用に設計された電気製品を使用してください。（ハンダなどの電熱製品は使用不可）また漏電等を起こさないよう注意してください。● シェルター内に危険物を保管しないでください。● パイプ等にぶら下がらないでください。また危険ですので、シェルターの上には絶対に上らないでください。
 注意	この注意を無視して誤った組立て方や使い方をすると、事故やケガといった人的損害、又は物的損害の発生が想定される内容を表しています。
※組立時	
	<ul style="list-style-type: none">● シェルターを設置する前に、部品が揃っているか確認してください。● シェルター設営は必ず十分な人員で行ってください。● シェルター設営の際は安全の為、安全帽、グローブを着用し、作業に適した衣類で作業をしてください。● シェルター設営の際は周囲に十分に注意してください。近くに人や物がないことを確認してください。● シェルターの設置は水はけが良く、できるだけ平らな場所を選んでください。また、風の影響を受けにくい場所をおすすめします。● がれき等シェルターを傷つける恐れのあるものはあらかじめ取り除き、整地してから設営してください。● シェルター本体はアンカーで確実に固定してください。風で飛ばされたり雨水が溜まって思わぬ事故につながることがあります。● シェルターを設置する場所によっては（コンクリート面等）付属のペグが使用できない場合があります。コンクリート用アンカーなどを別途ご用意の上設置してください。● 本取扱い説明書を良くお読みになってから設営をしてください。● シェルター設営の際、建築申請が必要な場合は必ず申請を行なってください。不明な場合は各自治体にお問合せください。
※使用時	
	<ul style="list-style-type: none">● シェルターが破損した場合は速やかに使用を中止してください。● 出入口を閉める際はシェルター内部に人がいないか等、安全確認してください。● 出入口ファスナーは強引に閉めると破損する恐れがあります。● テントの張り、筋交いの張り、ボルトの緩み、アンカー、出入口ファスナー等定期的に点検を行なってください。

その他、シェルターの設営及び使用時の事故、損害に関しての補償はいたしかねます。自己責任の元、使用してください。

設営前に

パーツの確認

- ・製品につきましては、梱包前にチェックが行われておりますが、安全のため設置前に今一度パーツの確認をお願いいたします。
- ・万が一不良品や不足パーツ等ございましたらご連絡ください。
- ・輸入品につき、輸送時につく傷などがある場合がございます。ご理解の上ご利用下さい。

補足説明書について

- ・パーツ番号、製品サイズは英文説明書を参照して下さい。
- ・本説明書は英文説明書と異なる設営方法で記載されております。どちらの方法でも設営可能です。設営設備等の環境によりお選び下さい。
- ・本説明書上で使用されている図、写真はすべてハイルーフタイプとなります。標準ルーフとパイプ形状等が異なりますので、ご注意下さい。

設営場所について

- ・雪が溜まりやすい場所には設置しないで下さい。また常に強風にさらされる場所にも設置しないで下さい。
- ・設営前に設営面は必ず水平にしてください。水平でない場所に設置する方がたつきが出て製品本来の耐久性等を発揮する事ができません。
- ・コンクリート面に設置する場合はオールアンカー、ケミカルアンカーなどをご用意下さい。

設営に必要な工具など

- ・高所作業がありますので、足場、高所作業車をご用意下さい。
- ・13mmスパナが付属しておりますが、以下の工具等をご用意いただけますとより迅速に作業が行なえます。
●13mm式めがねレンチ●シノ付きの13mmラチェット●ゴムハンマー●14mmスパナ●モンキーレンチ
- ・作業時には手袋、ヘルメットを着用し、安全な服装で行ってください。

ベースパイプ設置

ベースとなる角パイプを設置します。図1 aの部分を測量してそれぞれのモデルの長さに合わせベースパイプを設置します。サイズはそれぞれの英文説明書を参照して下さい。

【注意】モデルによっては図1のようにベースパイプを左右で180度回転させたように設置します。（図1赤色部分参照）
ベースパイプのアーチパイプ接続部分の位置を左右合わせるよう設置して下さい。

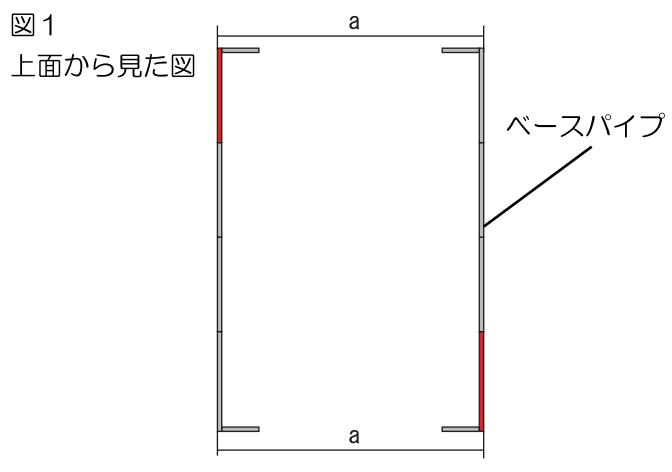


図2のようにベースパイプを並べたら付属のネジでベースパイプを連結してアンカー穴を掘ります。アンカーホルダーにモルタルを流し込みアンカーを固定します。モルタルサイズは図3を参考にして下さい。図3のモルタル量はメーカー推奨値です。アンカーが固定される前にアーチを設置するとアンカーが動いてしまいますので、必ずモルタルが固まってから設置して下さい。

※コンクリート面へ設置する場合は付属のアンカーは利用できませんので、別途オールアンカー等を購入して施工して下さい。

※アンカーを固定せずに設置する事も可能ですが、アーチ部の力により、説明書サイズより横幅が広がり、出入口のジッパーが閉められない等不都合が起こる場合がございます。

※注意

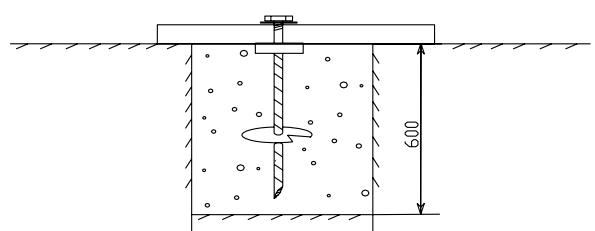
●横幅サイズについて

英文説明書に記載されている横幅サイズはベースパイプの外側から外側のサイズです。外側と外側のサイズですとテントシートに張りが出るため、出入り口のジッパーが閉めにくくなりますがバタつきが抑えられます。

頻繁に出入りする使い方をする場合は図1 aの長さを少し狭くしてください。多少風によるバタつきがありますが、ジッパーの開け閉めがスムーズになります。



図3



ベースパイプ
アンカーホルダー $\phi 18\text{mm}$

出入口アーチの作製

出入口のアーチを設置します。平置きで英文説明書を参考にパーツを組み付けます。（図1、図2）

図1

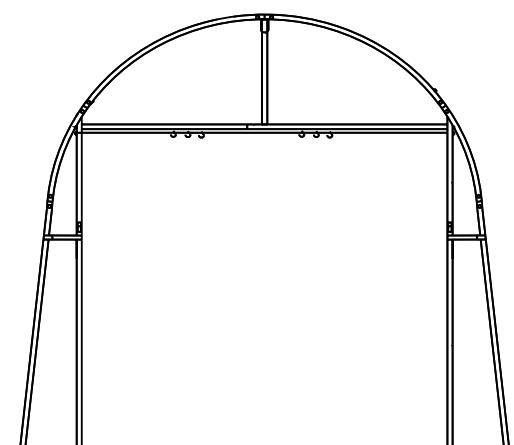


図2



図3

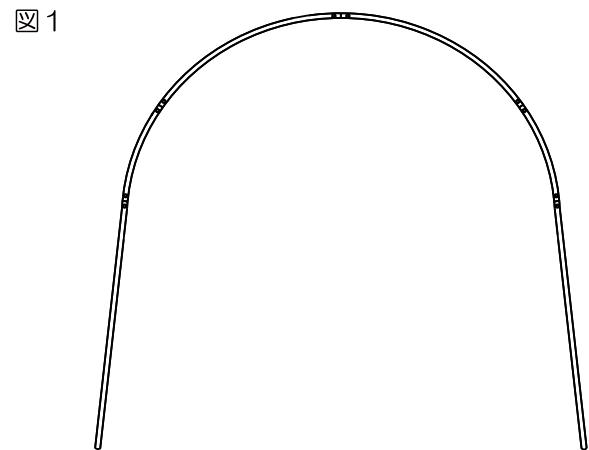


出入口のアーチが完成したら、ベースパイプにはめ込みます。（4箇所）ベースパイプはめ込み口（図3）にはボルト用の穴が空いていますのでパイプと差込口の穴を合わせて付属のボルトを差し込んでください。

アーチの作製

アーチを設置します。平置きで英文説明書を参考にパーツを組み付けます。（図1）

図1



出入口のアーチが完成したら、ベースパイプにはめ込みます。（2箇所）ベースパイプはめ込み口（図2）にはボルト用の穴が空いていますのでパイプと差入口の穴を合わせて付属のボルトを差し込んでください。

図2



アーチの接続

先程組み付けたアーチを横パイプで接続します。位置によってパーツが異なりますので、英文説明書を参照して下さい。（図1、図2）

図1

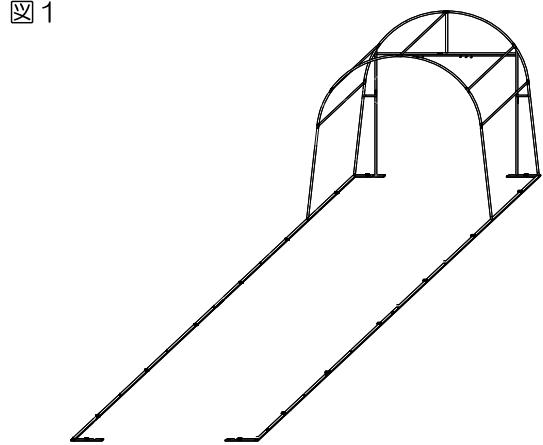
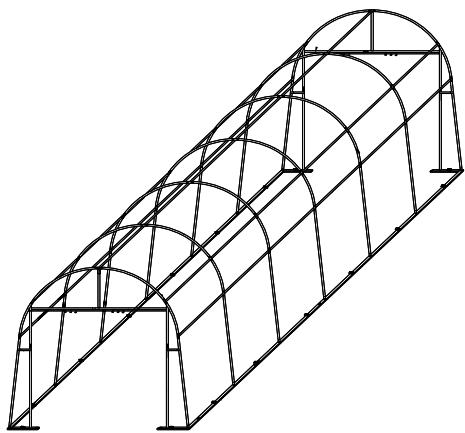


図2



図3



ワイヤー筋交いとラチェットタイダウンの設置

ワイヤー筋交いを取り付けます。図1の様にハイルーフタイプは上下2本、（ハイルーフは上下で長さが異なりますので、ご注意下さい）標準ルーフは頂点とベースパイプをつなぐ1本です。

図1

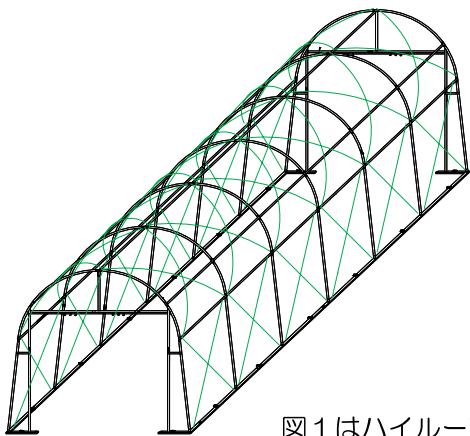


図1はハイルーフタイプ

バンブルは全体的に均等に締め付けてください。強引に締め付けるとワイヤーが切れたり、カシメ部分が破損する恐れがあります。（図2）

図2



ベースパイプにテント張り用のラチェットタイダウンを接続します。（図3）

モデルによってはラチェットが付属しないものがありますので、その場合は取り付け不要です。（図4）

図3



図4



メインシート設置

組み立てたフレームの左右どちらかにメインシートを広げて袋状になっている部分に付属のパイプを数本挿入します。メインシートの左右ともパイプを挿入します。パイプは外れやすいので注意して挿入してください。（図1）

図1



先程通したパイプにロープなどを縛りつけ片方から引っ張ります。サイズに応じて引っ張る箇所を変更してください。（図2はハイルーフ12坪タイプです。）

テントがずれないように均等に引っ張ってください。途中でひっかかりがありましたら、内側から引っかかりを取りしてください。強引に引っ張るとテントが破損する恐れがありますので注意して下さい。左右前後の位置に注意しながら均等に引っ張ります。

図2



図3



メインシート固定

メインシート出入口側固定

メインシートの出入口側の固定方法はモデルによって2通りあります。以下の①、②を参照して行なってください。

①バンド固定（図1）

バンドが付属している場合はバンドをメインシートの金具に通し、出入口のアーチパイプと接続します。金具の裏面からバンドを通して固定します。バンドを引っ張ると締め付けが可能ですが、締め付けが出来なかったり、バンドが緩む場合は通し方が間違っていますので、確認してください。出入口それぞれ同じテンションで固定して下さい。

②ボールループ固定（図2）

ボールループが付属している場合はボールループをメインシートのハトメ穴に通し、出入口のアーチパイプと接続します。出入口それぞれ同じテンションで固定して下さい。強引にゴムを引っ張ると破損の原因となります。

図1

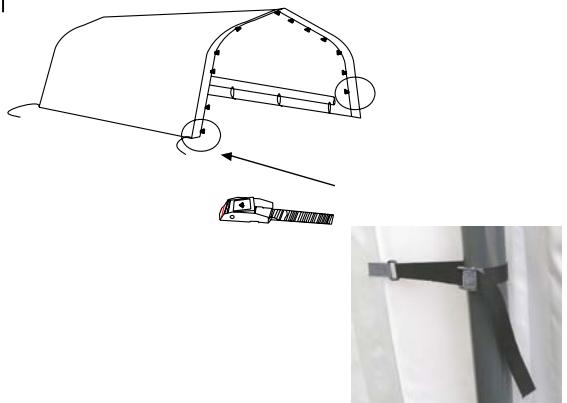
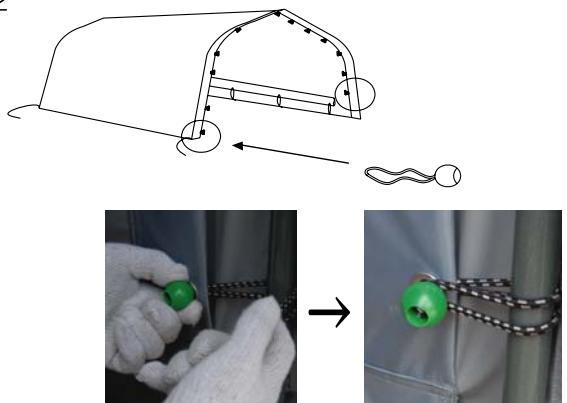


図2



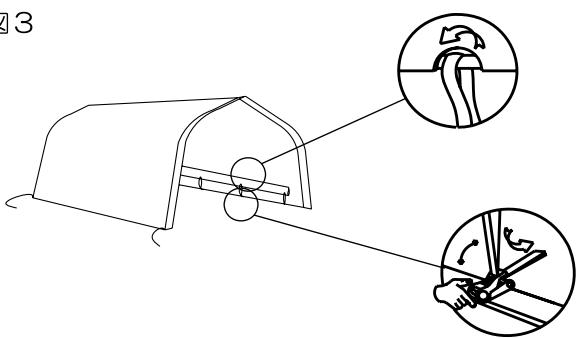
メインシートベースフレーム固定

メインシートのベースフレーム固定方法はモデルによって2通りあります。以下の③、④を参照して行なってください。

③ラチェット固定（図3）

ラチェットがベースパイプ付属している場合は付属のバンドをメインシートに通したパイプの袋状の部分に通して、ラチェットで固定して下さい。左右前後均等に締め付けて固定して下さい。

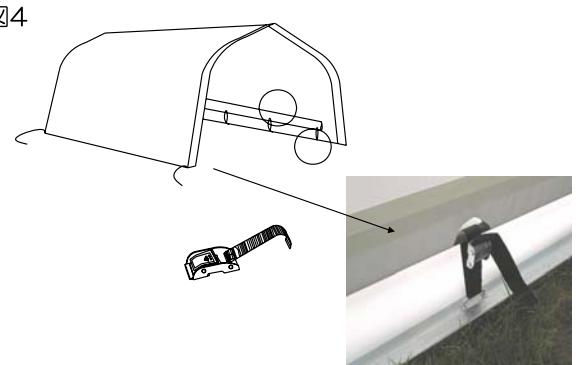
図3



④締め付けバンド固定（図4）

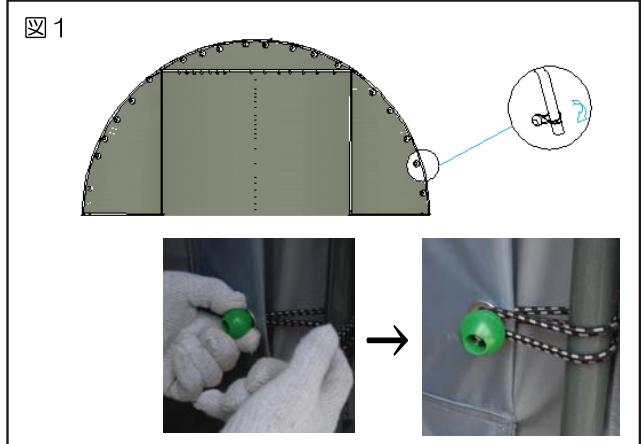
締め付けバンドが付属している場合はバンドをメインシートに通したパイプの袋状の部分とベースパイプのステーに通して、固定して下さい。金具の裏面からバンドを通して固定します。バンドを引っ張ると締め付けが可能ですが、締め付けが出来なかったり、バンドが緩む場合は通し方が間違っていますので、確認してください。左右前後均等に締め付けて固定して下さい。

図4



出入口シート設置・メインシート出入口アーチ部絞り

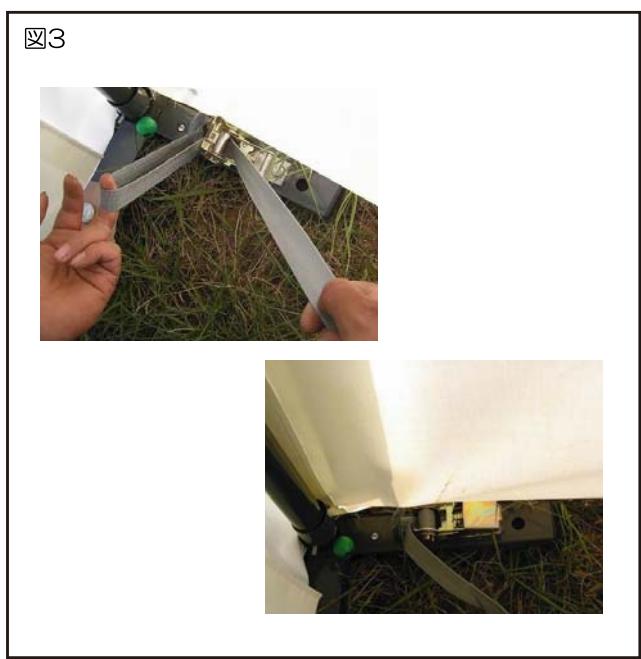
出入口シートを設置します。鳥居部分はテントに付属しているマジックテープバンドで固定します。アーチ部分は付属のボールループを利用して固定します。（図1）
※モデルによっては出入口テントシートが複数に分割されています。



メインシートの出入口アーチ部分を絞り、完全に固定します。（図2）

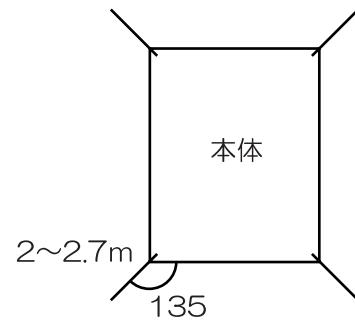
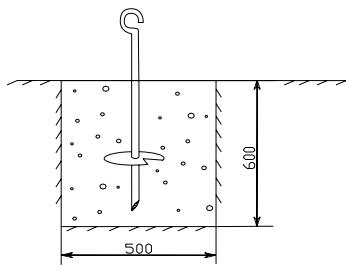


メインシート出入口アーチ下部に付属している平ヒモを出入口シート下部にあるハトメ穴とドアベースパイプの丸型のステーに通しドアベースパイプに付属しているラチェットに通します。
平ヒモを通した後、ある程度引っ張りさらにラチェットを使用して絞ります。（図3）



あおり止めロープ設置（ハイルーフタイプのみ）

ハイルーフタイプは天井高が高い為、風の影響を受けやすいです。付属のあおり止めロープとアンカーの設置をお願いします。



- ・上図のように外部アンカーと接続します。自在が付属していますので、ロープの長さは調整して下さい。
- ・あおり止めロープ用アンカー位置は上図を確認して下さい。

※標準ルーフタイプにはあおり止めロープは付属していません。

最終確認

- ネジの緩み、締め忘れ
- 筋交いの張り
- アンカーのボルト緩み
- テントシートの張り
- あおり止めロープの張り



上記項目を必ず確認して下さい。

メンテナンスについて

- ・設営1ヶ月後にネジの増し締め点検及び筋交い、テントカバーの張り調整を行なってください。
その後定期的（3ヶ月に1度程度）に増し締め点検および張り調整を行なってください。強風にさらされた後も同様の点検を行なってください。強風時は危険ですので、絶対に点検を行なわないで下さい。
- ・ファスナーの動きが悪くなりましたら、ファスナー部分にロウや潤滑スプレーなどを塗ってください。
- ・フレームの錆が浮き出きましたら、錆を取り錆止め剤を塗装し、上塗りをして下さい。
- ・外部あおり止めのロープの張りは定期的に調整を行なってください。